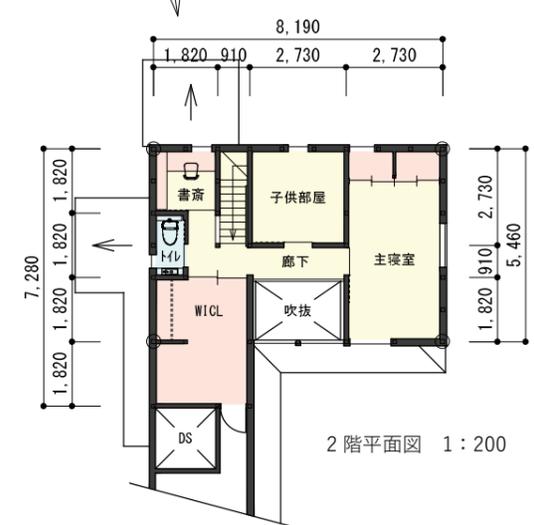


中庭のある家



上段) 東面外観
 下左) 中 庭
 下右) アプローチ



計画概要

敷地の西隣には某企業の社屋が存在します。建物の2階にある主執務室はガラス張りで、常に敷地を見下ろしています。その視線を意識することなく落ち着いて生活できることが計画し、重要な要素となりました。L型に計画したプランの屋根は平屋の部分から徐々にせり上がり大屋根までつながります。こうすることで、隣地からの視線を気にすることなく、且つ冬の日射も出来るだけ長い時間、確保することができます。車庫とアプローチを兼ねた別棟の建物との間にできたスペースを中庭にし、中庭には四季折々に咲く草花や樹々を植え、室内外が一体的に感じられるように大きな開口部を設けています。

分譲地の街並み

住まい手は当敷地に隣接する分譲地のオーナーでもあり、以前大手ハウスメーカーで営業職をしていた経験があります。しかし、新しい分譲地が一様に工業化された住宅で街並みを形成することが相応しいとは考えていません。この地域は歴史的文化的の薫り高い地域でもあり、ご自身が住まう隣接地には想いを持った住まい手が増えて欲しいと望んでいます。その想いに共感した今回の工事に携わった設計、施工、造園、それぞれの業者、そして不動産、ウェブマーケティングの各社が協力し、地域に相応しい街並みが一棟でも多く建ち並ぶようにブランディング展開を始めています。

林産地へ

設計が固まると自分達の家で使われる材料が、どんな所からやってきて、どのような工程を経て、そしてどのような人たちが、どんな想いを持ち、その木々を育ててきたのかを知る旅からKさんの家づくりは始まります。施行者では、住まい手を伴い、高知県馬路村にある魚梁瀬杉の産地まで足を運び、その様子を見て知って納得してもらい取り組みを行っています。このような思い出はご家族の記憶にも刻まれ自身の家を大切にしようとする気持ちを醸成させるとともに、そこから学ぶことはやがて自分ごととなり、お子さんにも関心をつないでいきます。右の写真はご家族が現地を訪れた時の記録です。山へ行

き、製材の工程を見、自分達の家の材料にサインをし、上棟時にその材料と対面したお子さんは嬉しそうに眺めていました。魚梁瀬杉は豊臣秀吉の時代に大阪に納材されていた歴史を持ち昔から関西との縁があったそうです。ウッドマイレージの観点では少し距離が延びますが、山の状況や乾燥技術に関心を持った施行者が採用を始めました。

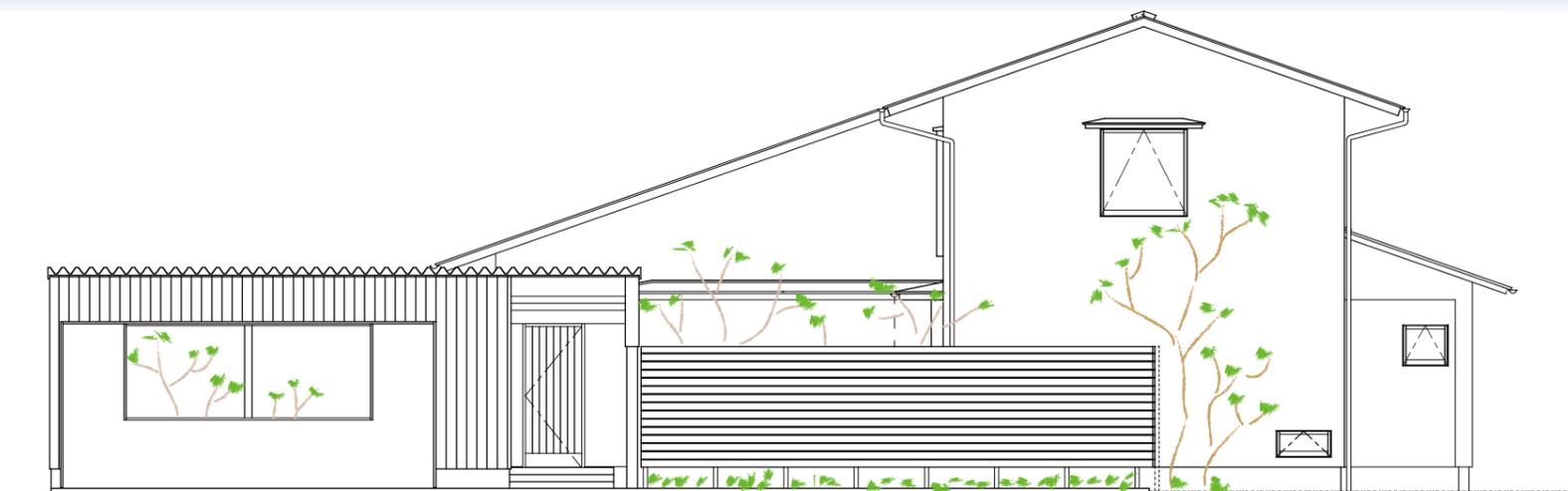


	住宅部分	別棟部分
敷地面積	605.88 m ²	
建築面積	70.80 m ²	44.72 m ²
1階床面積	70.80 m ²	44.72 m ²
2階床面積	44.72 m ²	
延べ床面積	115.52 m ²	44.72 m ²
外皮性能等	Ua 値 0.57W / m ² K ηac 2.4 % 長期優良住宅 構造材; 魚梁瀬杉 羽柄、造作、仕上; 兵庫県	



室内と庭と車庫

室内は水回りを一直線に配置し、家事の効率化を目指しています。1階は、部屋を小分けにせずリビングダイニング、畳の間、ピアノ置場などをゆるやかにつなげています。こうすることで卓越風の利用がより効果的になり、中間期では家の中を通る風がとても心地よく感じられます。床は足に優しい兵庫県産の杉を採用していて、夏は素足が気持ち良く、庭とのつながりを感じることが出来るように広いデッキを設けています。塀の足元を少し透かしたのは、庭の緑を外にも提供するため、建物が完成したばかりの頃に比べると随分と足元の緑が息づいています。春になり、オープンな車庫にやってきたツバメのために住まい手さんは、場所を譲り、しばらくの間車庫の外に車を停めておられました。敷地にゆとりがある地方ならではの光景と住まい手の心の広さに感心する出来事でした。



東立面図 1:100

